
工藤 重典 Shigenori Kudo, Flute

国際的に活躍を続けるフルーティスト工藤重典は、1979年にパリ国立高等音楽院を一等賞で卒業、恩師 JP ランパルに認められ世界各地で演奏活動を行う。シャンゼリゼ劇場、サル・プレイエル、ウィーン楽友協会、ミラノ・スカラ座、チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院ホール（モスクワ）、ヘラクレス・ザール（ミュンヘン）、リンカーン・センター（ニューヨーク）、サントリーホール、台北国家戯劇院、芸術の殿堂（ソウル）、上海及び北京中央音楽学院コンサートホールなどヨーロッパ、オセアニア、アフリカ、南北アメリカ大陸、アジアなど世界の百数十都市でソリストとして演奏してきた。

秋山和慶、井上道義、岩城宏之、尾高忠明、小澤征爾、小泉和裕、シモン・ゴールドベルグ、佐渡 裕、ホルスト・シュタイン、クラウディオ・シモーネ、レナード・スラットキン、外山雄三、A・ドミトリエフ、J・Fパイヤール、クリシュトフ・ペンデレツキ、ネヴィル・マリナー、山下一史、山田一雄、若杉 弘、H・ワルベルクなどの著名指揮者とこれまでに60曲以上のフルート協奏曲を演奏してきた。

ディスコグラフィは、マイスターミュージック、エラート、ソニー・クラシカル、フォンテックなどからリリースされ、70タイトルを超える。

最近では、兵庫県芸術文化センター管弦楽団とイベールのフルート協奏曲を、パスカル・ロフェの指揮で録音して話題を呼んだ。

1978年、第2回パリ国際フルートコンクール及び1980年、第1回JPランパル国際フルートコンクールでそれぞれ優勝。

現在、東京音楽大学教授、昭和音楽大学客員教授、パリエコール・ノルマル教授。

村松賞、フランス国大統領賞、フランス独奏家協議会賞、仏コルマル名誉市民賞、文化庁芸術祭賞、京都芸術祭特別賞を受賞。

(令和2年8月現在・転載禁止)